

実践報告8

# 話すこと [発表] のパフォーマンステストと パフォーマンス評価の実践

愛知県立吉良高等学校 教諭 杉浦 修平

## 1 はじめに

今回のパフォーマンス評価の授業実践は本校の多くの生徒が英語学習に対する苦手意識があり、意欲的、主体的に学習する態度が乏しいため、生徒が主体的に英語学習に取り組む態度を育成することを目的として実施した。また、実践内容は英語学習に対して苦手意識をもつ生徒がパフォーマンステストの初期に実施するものとして実施した。

## 2 単元の目標と言語活動

### (1) 教材

- ア 教科書：Vision Quest English Expression I（啓林館）
- イ 単元：Lesson 5 Can you tell me what *ammitsu* is like?

### (2) 単元の目標

- ・頻出表現を学び、丁寧に相手に許可を求めたり依頼したりすることができる。それに対し、肯定・否定どちらでも答えられる。
- ・レストランに行き、食事の注文ができる。
- ・助動詞それぞれの意味や用法を学び、適切に使い分けて話者の気持ちや判断を表すことができる。

## 3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

読むこと	・簡単な英語で書かれた200語程度の説明や物語を、単語や熟語の意味を調べながら読み、理解することができる。 ・既に習った英文を、発音やリズム、イントネーションに注意しながら、音読できる。
話すこと [発表]	・日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
書くこと	・辞書を使えば、日常生活の出来事や、自分の経験について、短い文で書くことができる。

#### 4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p>&lt;知識&gt; 文章を読み取るために必要となる語彙や表現を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 日本の伝統的な和菓子について話している会話文を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>レストランでの会話が成り立つように、日本の伝統的な和菓子についての会話文を読んで、概要や要点を捉えている。</p>	<p>レストランでの会話が成り立つように、日本の伝統的な和菓子についての会話文を読んで、概要や要点を理解しようとしている。</p>
話すこと [発表]	<p>&lt;知識&gt; 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題についての情報や考えを、聞いたり、読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。</p>
書くこと	<p>&lt;知識&gt; 自分の意見を伝えるために必要となる文法事項や表現等を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 学校の規則について、自分の意見を文法事項や表現等を工夫して書く技能を身に付けている。</p>	<p>読み手によく理解してもらえるように、学校のルールについて自分の意見を文法事項や表現等を工夫して理由とともに書いて伝えている。</p>	<p>読み手によく理解してもらえるように、学校のルールについて自分の意見を文法事項や表現等を工夫して理由とともに書いて伝えようとしている。</p>

#### 5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
1 2	<p>【ねらい】 助動詞（can, may, must）の使い方を学ぶ。</p> <p>【学習活動】 ①教科書例文を参考にし、問題演習に取り組む。 ②教科書例文小テストを受ける。</p>	○			ワークシート 小テスト
3 4	<p>【ねらい】 助動詞（should, will, used to）の使い方を学ぶ。</p> <p>【学習活動】 ①教科書例文を参考にし、問題演習に取り組む。 ②教科書例文小テストを受ける。</p>	○			ワークシート 小テスト

5	【ねらい】 助動詞 + have + 過去分詞, wouldを含む慣用表現を学ぶ。 【学習活動】 ①教科書例文を参考にし, 問題演習に取り組む。 ②教科書例文小テストを受ける。	○			ワークシート 小テスト
6	【ねらい】 助動詞を含む会話文を読み, 概要や要点を理解する。 【学習活動】 ①リスニングで概要把握 ②単語練習 ③内容把握 ④音読練習	○			
7	【ねらい】 助動詞を用いて, 学校のルールを三つ, 5語以上の英語で書く。 【学習活動】 ①学校のルールを三つ, 5語以上の英語で書く。 ②書いた内容をペアで発表する。	○	○		ワークシート 活動の観察
8	パフォーマンステスト	○	○	○	ワークシート 活動の観察 ルーブリックを用いて評価

## 6 パフォーマンステスト

次の指示を黒板に示し, 15分の準備時間を設ける。

- ① 自分が理想とする学校のルールを助動詞を用いて一つ書く。
- ② 10語以上使用する。
- ③ なぜそのルールにしたのか理由を述べる。

### (1) 実施方法

- ① 15分の準備時間を設ける。
- ② クラスで発表し, その後, 聞き手との質疑応答という流れで進める。  
※生徒に採点の規準を事前に提示する。

### (2) 指導上の留意点

事前にそれぞれの助動詞の意味や働きを確認する。

## 7 ルーブリック

### (1) 評価方法

- ① パフォーマンステストを実施し, ルーブリックを用いて評価する。
- ② ワークシート提出させる。

### (2) 評価の領域(内容のまとめり): 「話すこと [発表]」

「思考・判断・表現」についての三つの条件

- 条件①助動詞を使って理想とする学校のルールを一つ示している。  
条件②10語以上使用している。  
条件③なぜそのルールにしたのか理由を述べている。

評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<知識> 助動詞を含む表現を理解している。 <技能> 聞き手に分りやすい音声等で話して伝えている。	聞き手に伝わるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えている。	聞き手に納得してもらえるように、三つの条件に基づいて、自分の考えを適切に伝えようとしている。
a (5点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙や表現が適切に使用されている。</li> <li>・聞き手に分かりやすい音声等で話して伝えている。</li> </ul>	三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えている。	三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えようとしている。
b (3点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話し、伝えている。</li> <li>・理解に支障のない程度の音声等で話している。</li> </ul>	三つの条件を満たして話して伝えている。	三つの条件を満たして話し、伝えようとしている。
c (1点)	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況をbとする

## 8 実践報告

### (1) 実践の内容と検証方法

「理想とする学校のルールを助動詞を用いて、10語以上で書き、また、その理由を述べる」というパフォーマンステストを本校生徒23人に対して実施した。本校の英語表現Ⅰの授業は2クラスを3展開して実施している。生徒にはパフォーマンステスト当日にテスト内容を伝え、15分の準備時間で英文を考えて発表させた。また、パフォーマンステスト前時ではテスト当日に理想とする学校のルールの案が出やすいように、現在の学校のルールを助動詞を用いて10語以上で書くことを実施した。

### (2) 実践の結果と考察

パフォーマンステストを実施したところ、「話すこと [発表]」「書くこと」の知識・技能の評価で顕著に差が表れた。生徒の中には2語しか書けなかった生徒や、理由の部分が書けない生徒、いろいろな考えが浮かび、辞書で単語を調べて、作文できる生徒がいたことなど、大変興味深い結果となった。これは、15分という時間制限を設けたこと、及び、自分自身で内容を考え、与えられた条件に従って書かなければならないことで、当日までの理解度が顕著に表れたと言える。

前時の授業で、現在の校則について、クラスでさまざまな意見を交換したことで、自分が思い浮かばなかった新たな考えにも触れることができ、さらに、発展問題として、理想とする学校のルールを書かせたことで、例えば **can't** であれば **can** に置き換えて、**mustn't** であれば **may** に置き換えて書いた生徒が多くいた。さらに、結果としてパフォーマンステストの内容がよかった生徒は、単元内容の理解度が高く、定期考査の結果もよかった。今回のパフォーマンステストの条件として、「③なぜそのルールにしたのか述べている」を設定したが、理由の部分で既習の表現を使うことができた生徒は少

数派であった。英語に苦手意識がある、考査得点が低い生徒は理由の部分が書けないことが多かった。また、そもそも何を書けばいいのかわからなかった生徒も複数名おり、その生徒は英語に苦手意識があり、考査得点も低い傾向にある。

### (3) パフォーマンステストの評価

評価に関しては当初は規準の設定が非常に難しいと感じていたが、「三つの条件」(①助動詞を使って理想とする学校のルールを一つ示している。②10語以上使用している。③なぜそのルールにしたのか理由を述べている。)を設定したことにより、基準が明確になり、「b」,「c」の評価は判断がしやすかった。しかし、「a」の評価にするかどうかの規準は【知識・技能】が「語彙や表現が適切に使用されている」「聞き手に分りやすい音声等で話して伝えている」、【思考・判断・表現】が「三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えている」、【主体的に学習に取り組む態度】が「三つの条件を満たした上で、既習の語句や表現を用いて自分の考えを詳しく話して伝えようとしている」としたため、曖昧さが残る表現となってしまった。実際に、評価が難しくなり、「a」評価とした生徒がいない結果となってしまった。「a」評価になる生徒が数名はでるような設定にするべきであった。【知識・技能】の「a」評価の規準として示した「聞き手に分りやすい音声等で話して伝えている」という項目に関しては、指導を重点的に行っていなかった。指導を十分に行っていないのに、評価規準に入れてしまったことも「a」評価が出なかった一因であると反省している。評価規準に入れるのであれば、指導の時間を十分に取り必要があること、コミュニケーション英語Ⅰの授業でも音声等の指導がどのように行われているのかを把握するなど、科目を横断的に指導していく必要を感じた。

### (4) 成果と課題

#### ア 成果について

生徒の単元内容の理解度を測るためにパフォーマンステストは非常によい方法であった。生徒たちは自分の考えを英語で表現することに慣れておらず、初めは戸惑いがあったように見られたが、結果として楽しんで活動していたため、主体的に学習に取り組む態度の育成を図ることができたと感じる。また、他の意見に触れることで考え方の幅を広げることができたため、パフォーマンステストに向けた学習を継続することによって、より深い学びにつながっていくのではないだろうか。さらに、発表内容に対して、質問したり、議論したりする活動を導入すれば対話的な学習にもすることができるため、パフォーマンステストは生徒の主体的で対話的で深い学びを実践していく上での最良のツールとすることができると感じた。

#### イ 課題について

##### (ア) 実施上の課題

今回の実践は23人のクラス(2クラス3展開のうちの一つ)で実施したため、1時間の授業内で終わることができた。しかし、40人のクラスであれば2時間の授業が必要になり、テストを2日に分けて実施することが必要になる。この場合評価に平等性が保てなくなるため、1時間の授業内で終わることが重要と考える。人数が増えた場合に1時間で終わるためには、タブレット端末を使用した実施が必要不可欠である。そのために、パフォーマンステスト実施前にタブレット端末の使用に生徒が慣れておく必要がある。また、生徒の英語の発音が聞き取りづらいことが何度かあった。指導者はワークシートを提出させ、発表内容の確認ができたが、英語の聞き取りにも苦手意識があり、ワークシートが見られない聞く側の生徒は、発表内容がわからないことも多くあったように思われる。全体での発表を実施する場合は、工夫が必要であると感じた。

#### (イ) 今後に向けての課題

今回の実践は単一クラスのみで実施した。全てのクラスに実施を広げるためには、教科担任同士で評価方法、実施時期、実施する単元のすり合わせをする必要がある。特に、評価規準の統一が非常に重要であるため、生徒の発表をビデオ撮影する必要がある。タブレット端末を使用し、生徒同士でパフォーマンステストを撮影、記録する方法であれば、ビデオ映像を残すことや1時間の授業内に終わることが可能になる。タブレット端末を活用したパフォーマンステストは、より実践的なものにすることができ、教科担任同士で評価規準のずれが生じにくいパフォーマンス評価ができると感じた。

## 9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）「学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編」
- ・国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』